

ミュージアムへ行こう！

東京都美術館

都美のとびら

はじめに

東京都美術館は、日本初の公立美術館として1926年に開館（設計：岡田信一郎）。九州の炭鉱王といわれた佐藤慶太郎からの寄付100万円（現在の約33億円相当）をもとに建設されました。

当時の館名は東京「府」美術館、場所は、現在の東京都美術館の北側隣にあり、大階段とギリシャ神殿風の列柱が正面に並ぶドラマティックな建築でした（写真1）。岡田の手によって設計された建築では、大阪市中央公会堂、鳩山会館などが現存しています。

初代の建物は、老朽化や手狭になったこと等により、1975年に現在の場所で建て替えとなりました。この新館の設計は前川國男によ

るものです。そして、2010年から2カ年の改修工事を経て、今日に至ります。

東京都美術館へようこそ

JR上野駅の公園口を出て、上野公園内を徒歩7分程度。茶色の箱状の建物がいくつか並ぶ建物、そこが、東京都美術館です。お隣は上野動物園。時々、動物の鳴き声も聞こえてきます。

正門から敷地内に入ると、銀色の球体の彫刻がみなさんをお出迎えます。こちらは記念撮影スポットとしても大人気です。しばしば「パチンコ玉」とも呼ばれますが、作品名は《my sky hole 85-2 光と影》、井上武吉という彫刻家の作品です。球面に映る、不思議に歪んだ景色は子どもにはもちろん、大人にも大人気。1985年に設置されて以来、当館のシンボリック的存在です。もしかすると、読者のみなさんの中にも、この彫刻の前で記念撮影をしたことがある方がいらっしゃるかもしれません。

球体を眺めつつ、そのまま進んでいくと、ひとつ下の階にある正面玄関へと続く広い階段が現れます。以前は階段のみだったのですが、改修工事でエスカレータとエレベータが



写真1 東京府美術館 正面

設置され、階段の幅は以前の半分程度になりました。

さて、みなさん、お気づきでしょうか？

正面玄関は、正門の位置よりも、ひとつ下の階にあります。このことで、来館して下さったみなさんを「いま、私は何階にいるのかしら？」と混乱させてしまうのですが、これは、都市公園の中に建設されたことに起因しています。

公園内での建築には、さまざまな制限があります。当館は都市公園である上野公園内にありますので、さまざまな規制をクリアして、建てられているのです。正面玄関がひとつ下の階にあるのは、建物の高さ制限のためです。そして、設計段階で求められたさまざまな機能（延床面積は旧館の約2倍）を果たすべく、建物の約60%が地下部分となっています。1975年の建築時に掘り出された土の量はなんと約15万 m^3 。小学校の25mプール約300杯分にあたります。地下を活用しないと、12室の公募展示室、3室のギャラリー、特別展示室、バックヤード、レストランや講堂、館全体を支える機械室などを収納しきれなかったのです。

4つの建物と4つの主軸事業

当館の建物を見て、お気づきになる方も多いかもしれませんが、建物は小さな街並みのように配置されています。前川は小さな街を作ることを意識していたと言われており、設計図には、街並みを設計するときの用語が登場します。それはあたかも、当館の4つの主軸事業である「展覧会事業」「公募展事業」「アート・コミュニケーション事業」「アメニティ事業」を体現しているようにも見えます。

正門を入れてまず右側には、「展覧会事業」を展開する「企画棟」です。

こちらでは、《真珠の耳飾りの少女》が展示された「マウリッツハイス美術館展」

(2012年6月30日～9月17日開催)や「メトロポリタン美術館展」(2012年10月6日～2013年1月4日開催)、そして、「エル・グレコ展」(2013年4月7日まで開催)など、マスコミ等との共催での大型展が開催されます。こちらの建物は、今回の改修工事の際に全面建て替えが行われました。以前は、展示室の上層階へと往来する階段室が建物の中央部にあり、そのため、展示室はそれを取り囲むように配置され、広い空間を確保することが難しい上に、天井もあまり高くありませんでした。そこで、多くのお客様が快適に鑑賞できるよう、天井高を上げ、階段室は建物の隅へ集中させて、広い展示空間を確保するとともに、休憩ロビーを新設しました。

次に、「企画棟」の向かい側、つまり正門の入口側から見て左側には、同じ形の建物が4列に並んでいます。こちらは「公募展事業」を実施する「公募棟」です。

当館の展覧会事業の大きな柱のひとつである公募展事業では、1年間に約250の団体による展覧会が開催され、1年間に約150万人の来場者があります。開催される展覧会は、絵画、彫刻、版画はもとより、いけばなや盆栽まで、実にバラエティーに富んでいます。また、学校教育機関の展覧会－大学などの卒業制作展や、小・中学校の作品展－も開催されます。展覧会は約1週間単位で入れ替えが行われ、年間を通じて多くの展覧会が行われています。

公募棟は外観は重箱のようなデザインの建物ですが、それは、前川による「中立で均質な空間を」という利用団体や来館者への配慮の結果のデザインでもあります。改修工事では、老朽化したエレベータをすべて新調し、床や照明、空調などの機能を向上させるなど、一新しました。また、設計者の前川が4棟の休憩室の壁面を彩る各色を、各棟のテーマカラーとし、展示室の入口の壁面や、エレベータの扉の色にも使用しました。前川はこ

これらの色の選定について特に言葉を残していませんが、当時、建設現場の担当者は、この4色を見て、「国鉄（現在のJR）の電車の色ですね」と前川に言ったそうです。現在、JRの車両の外側が色で塗られているものはほとんど見られなくなりましたが、各車両にデザインされた色のラインを思い出しながら、公募棟のテーマカラーを見ていただけたらと思います。4色は、「赤（オレンジ）、青、黄（山吹色）、緑」です（写真2）。

そして、3本目の柱、「アート・コミュニケーション事業」を担う建物は企画展示棟の奥に、ひっそりと佇んでいます。

この「交流棟」には、講堂、美術情報室、スタジオ、プロジェクト・ルーム、アート・スタディー・ルームがあります。横文字ばかりが並んでしまいましたが、美術館においてさまざまな活動をするための拠点となっており、文字通り、アートを介したさまざまな「交流」を生み出す機能を担っています。また、東京藝術大学との連携事業「とびらプロジェクト」や当館でボランティアに活動するアート・コミュニケータ「とびラー」の活動も、この棟にあるプロジェクト・ルーム、アート・スタディー・ルームを拠点に行われています。

最後の4つ目の柱は、「アメニティ事業」です。

聞き慣れない言葉かもしれませんが、美術館に来館したお客様に、展示会の鑑賞に留まらず、アメニティ空間としての美術館で、心地よく過ごしていただきたい、という考えのもとに推進している事業です。この機能は、「企画棟」・「交流棟」と「公募棟」を橋渡しするように、「中央棟」に集約されています。こちらには、カフェ、レストラン、ミュージアム・ショップ、佐藤慶太郎記念アート・ラウンジがあります。

当館が建てられた1975年当時の美術館のレストランと言えば、建物の隅の方に配置さ



写真2 夕景 2012年（撮影：齋藤さだむ）

れ、あまり重視されていないことが多かったと言われていました。しかし、前川はとても美食家で、－自身の設計事務所の所員たちを銀座の高級すし店久兵衛へしばしば連れていったことは、有名な逸話とのことですが－美術館にもおいしいレストランを、という考えを持っていました。そして、設計当初から、美術館の中央にレストランを配したプランを提示していました。今回の改修では、それまで1店舗のみだったレストラン施設を拡充し、1階にカフェ、新設した2階にカジュアルなレストランを、また、交流棟の1階には隠れ家的レストランを設けました。お腹の空き具合、ご利用になるシチュエーションによって、お好みのお食事処をお選びいただけます。

また、中央棟のロビーには、ミュージアム・ショップがあります。以前はロビーの隅での営業でしたが、ちょっとしたギフトもお買い求めいただける、素敵な商品を多く扱う、明るく広い店舗へと変身しました。東京の伝統工芸の職人とデザイナーのマッチングにより誕生した当館のオリジナル・グッズも販売されているほか、当館のロゴ・マークを配したグッズも取り扱われています。

オリジナルを活かした改修工事

今回の改修工事は、1975年に建てられたオリジナル・デザインを最大限に活かしながら、美術館に求められる新たな機能をうまく



写真3 スツールのクリーニング風景 2013年



写真4 とびラーオリジナル紙芝居の上演

取り入れた改修となりました。また、古いものは壊して、ただ新しくすればいいという「スクラップ・アンド・ビルド」の考え方ではなく、使える遺産はブラッシュ・アップして活かし、さらに次の世代へ受け継いでゆくという考え方が多く取り入れられました。

例えば、ロビーや展示室に配置されている四角いスツールは、前川オリジナルのもので、今回の改修にあたり、修理して使用できるものには新しい命が吹き込まれ、次の30年も使用できるようにしました。具体的には、塗料の塗り直し、座面のクッションの張り替え、脚の長さの継ぎ足しを行いました。見た目の変化はほとんどありませんが、より座り心地のよいスツールへ生まれ変わりました。当館のためのオリジナル・デザインのスツールですから、これからも大切にしていきたいという想いが込められています。多くの来館者があった「マウリッツハイス美術館展」(2012年)終了後の休館日には、これらのスツールも一脚一脚、丁寧にクリーニングされました(写真3)。

唯一、建て替えが行われた「企画棟」も、オリジナルの建物のデザインが踏襲されています。外壁のタイルは今回のために新調されましたが、建設当初と同じ

焼き方で焼かれています。新しく設置された休憩ロビーも、公募棟の休憩ロビーと呼応するようにデザインされました。

久しぶりに来館されたお客様から、「前と変わらないわね」と時々お言葉をいただきますが、その感想こそ、今回の改修がうまくいったことの証ではないかと思うところです。

おわりに

展覧会以外にも、「とびラー」によるイベント(写真4)や、奇数月の第3土曜日の午後に開催される「建築ツアー」、偶数月に実施する美術館の裏側を探検する「美術館たんけんツアー」などさまざまな企画を予定しております。

みなさまの美術館での一日が充実したものとなるよう、スタッフ一同、日々努めてまいります。ご来館を心よりお待ち申し上げます。
〔執筆：河野 佑美：東京都美術館学芸員〕

東京都美術館 (公益財団法人 東京都歴史文化財団)

所在地：〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36

電話番号：03-3823-6921(代)

ファックス：03-3823-6920

入館料：展覧会により異なる

開館時間：9:30~17:30(ただし特別展開催中の期間は20:00まで開館)

休館日：第1・3月曜日(特別展・企画展は毎週月曜日休室)

URL：<http://www.tobikan.jp>

ツイッター：tobikan_jp

アクセス：JR上野駅公園口より徒歩7分、東京メトロ銀座線・日比谷線
上野駅7番出口より徒歩10分、京成電鉄上野駅より徒歩10分



東京都美術館

TOYO MUSEUM OF ART